

学校関係者評価報告書

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学校経営 生徒の各種「たより」への関心が薄い。保護者に渡すだけでなく、生徒たちにも読ませる工夫が必要である。 読書啓発活動の推進に努め成果が見られる。</p> <p>(2) 学習指導 子どもたちに成就感を味わわせたり、学力向上につなげていくには、教師の日々の教材研究等が必要である。基礎学力が十分身に付いていない生徒に理解させるには大変なエネルギーを要するが、真摯な努力が見て取れてすばらしい。 アンケート「授業評価は、授業改善に役立っているか？」の教職員の達成率がまずまずであるのに対し、生徒の「授業評価は授業に生かされていますか？」は低い結果が出ている。生徒に思いが伝わっていないのではないか。生徒が何をどのように必要としているかを聞き、分析されたらもっといい結果が出るような気がする。その結果、学力の向上につながり、評価もアップしていくのではないか。</p> <p>(3) 工業教育 WRO国際大会優勝をはじめ数多くの専門的分野での活躍はすばらしく、県下はもちろん全国的に八工の名を高めたことは特筆に値する。生徒自身の努力と研鑽はもちろんであるが、指導に当たられた教員の力量と熱意に敬意を表したい。 各種資格取得等かなり積極的に挑戦し実績を上げておられる。今後も継続され高度な資格取得に挑戦されたい。 今後も地道な取組で、生徒の将来に向かって道が開けるよう、また自信を持って巣立てるように努力していただきたい。 地域との交流を今後とも積極的にやっていただけたらありがたい。</p> <p>(4) 特別活動 ボランティア活動推進の評価自体は今一つであるが、近年学校側の姿勢として地域行事への参加や交流活動などに積極的に取り組み、生徒の活動も広がりうれしく思っている。 生徒の奉仕活動や交流、ボランティア活動への参加が少ない。参加者が増えるよう努力されたい。 生徒のボランティア活動への参加率は低いのに、教職員や保護者、地域住民の評価が高いのはなぜだろうか。生徒と大人では、ボランティア活動の考え方に相違があるのではないか。なぜ参加していないのかを追究し、生徒たちが考えているボランティアを推進していったらどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度は、「たより」を発行・配布する1日だけ、朝のショートホームルームを有効に活用して、担任から「たより」に関する話や説明を実施し、生徒に読ませるようにする。 ・ 図書館から発信する情報内容、発信の方法等を検討し、今後も継続的に読書啓発活動を行っていく。 ・ 授業におけるICT活用について校内研修を行い、分からせる、魅力ある授業の実践について研修している。さらに教え方を工夫し、授業力の質を向上させたい。また、家庭学習時間の確保に向けて、各教科で工夫した取組を行うとともに、教科担任がホームルーム担任と協力してエスタブリッシュメントテストのための事前学習会をしたり、資格取得のための学習指導を行ったりして、家庭学習時間を確保させたい。 ・ 授業評価のアンケートについては、アンケートの取り方を工夫するとともに、生徒による授業評価の改善点や教員の相互授業研修に基づいた課題を教科会で検討し、授業改善に取り組む。 ・ 本年度もWRO国際大会優勝をはじめ、生徒の活躍が顕著で、報道でも大きく取り上げられた。今後も引き続き努力したい。また、資格取得においても基礎的なものから、難易度の高い資格にも挑戦できるよう指導していきたい。 ・ 生徒は学校行事・家庭クラブ活動を通して1人当たり2～4回の交流活動を行っている。これらの交流活動では十分な成果が上がっており、生徒の活動に対する満足度も高い。それらの思いがアンケートに反映しているのではないかと考えられる。 ・ 部活動加入率が高い本校で、部活動を休んでまで自主的にボランティア活動に参加したいと考える生徒は少ない。部活動単位での参加の推進や、ボランティア活動の重要性を強くアピールし、自主的な参加へつなげていきたい。またアンケートの実施方法も工夫したい。

<p>(5) 生徒指導 工業高校訪問者に対する生徒の挨拶はとてすばらしく、さわやかな気持ちにさせられる。また、遅刻も減少しており、指導の成果が表れている。生徒の問題行動も少なく、落ち着いた学校生活が送れているのではないかと。地域住民として、生徒たちの表情や態度、雰囲気など落ち着きがあり好感が持てる。 無遅刻、高校生らしい身だしなみは守るべき最低条件で、生徒一人一人の自覚した行動が必要である。 自転車通学の場合、通学路の危険箇所などの把握を行い、生徒に安全運転の指導をしっかりとする必要があるのである。</p> <p>(6) 人権教育 「人権だより」を読んでいない生徒が多く、たよりに関心を持たせる工夫が大事である。 差別を鋭く見抜き、それに対して行動できる子どもたちを育成してほしい。</p> <p>(7) 進路指導 厳しい社会情勢・環境の中で、就職・進学ともにほぼ全員が内定していることは、学校側の取組がそのまま数値となって表れており、評価大である。 近年、就職活動は厳しくなっており、入学当初より将来の目標を立ててもらい、目標に向かって就活教育を推進する必要があると思われる。 生徒側からもう少し教職員に相談できる環境づくりをしていただければ、評価はよくなり信頼感も深まる気がする。</p> <p>(8) 学校保健・安全 けがや病気などについて家庭との連携が必要であるが、連携はよいと思う。 学校防災については、八幡浜市危機管理室との連携が今後一層大切になってくる。</p> <p>(9) 学校行政 節約推進は国民的課題であり、大いに取り組んでほしい。 取組もよく、評価結果もすばらしい。評価・達成率もよく、適切な改善と思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度も登校指導、校門指導を継続し、挨拶や交通安全・マナー、服装等の指導を行う。 ・ 保護者との連絡をさらに密にし、遅刻・欠席の防止に努めると同時に、基本的な生活習慣が身に付くよう保護者に協力要請をする。 ・ 非行防止講演会や全校集会を通して規範意識の高揚に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「人権だより」を通して、生徒の人権への関心を高めていけるよう、より分かりやすく親しみやすい内容の掲載に努める。今後も授業や人権・同和教育ホームルーム活動等、教育活動全般において人権啓発に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の就職も今年度並みの厳しさが予想されるため、進路講話やホームルーム活動等を通して生徒に早期に意識付けを行うとともに、模擬試験、適性検査、夏期補習等の充実を図る。また、学力向上を目指した補習指導を行い、進学に必要な学力の向上を図る。 ・ 開かれた進路指導室を目指し、生徒が気軽に相談できる環境を整えるとともに、ホームルーム担任にも進路に関する面談等の充実を働きかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も日常の健康管理はもちろん、健康問題に対する危機管理についても発信していきたい。また、疾病やけが等に対する予防や積極的な健康づくりに向けた取組についても発信していきたい。 ・ 愛媛県原子力防災広域避難訓練では、八幡浜市の取組に協力して、本校も屋内避難訓練を実施した。今後も、より一層八幡浜市や地域住民と連携を取っていきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も学校全体で節電に取り組みたい。
---	--

<p>2 重点努力目標について</p> <p>電気技術部がWRO2011国際大会で優勝したり、毎年のように全国レベルの大会で活躍したりするなど、文化部、体育部の活躍に八工の勢いを感じる。重点目標が着実に達成されており、生徒の挑戦する心とたゆまぬ努力、指導された教職員の方々の熱意と力量に敬意を表したい。</p> <p>学校長を中心に組織としてのまとまりも感じられる。ものづくり、人づくり等で県下に誇れる工業高校へと成長して行ってほしい。</p> <p>重点努力目標の達成に向けての努力が高く評価できる。ただ、生徒が行う評価は、保護者や教職員ほど高くないという結果が出ているので、そのギャップを埋めることができれば、さらに向上すると思う。</p> <p>3 説明・公表について</p> <p>学校から配布される各種たよりによって、学校行事等の情報や生徒の様子がよく分かる。現在の説明・公表の取組で十分であるが、これからも聞いてよく分かる、見て読みたいと思う説明・公表をお願いしたい。</p> <p>4 学校運営全般について</p> <p>入学式、体育祭、工業祭、50周年記念式典等で学校を訪問するが、常に生徒及び教職員の対応が丁寧かつさわやかで心温まる。「学校づくりは人づくりから」とも言われるが、その姿勢が伝わる。</p> <p>「出前授業」や地域に出向いての活動などを積極的に実施しており、これからも継続してほしい。また、「ものづくり世界」「レスリングの八幡浜工業高校」を全国にアピールしてほしい。</p> <p>教育活動全般にわたり、目標と今後の改善方策がきちんと示されている点が評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度も教職員と生徒がより高い目標を掲げて、様々なことに挑戦したい。 ・ 「ものづくりから人づくり・夢づくり、信頼される学校づくり」という重点努力目標に向かって取り組んできたことが評価されているので、教職員と生徒がさらに力を合わせてよりよい学校づくりに取り組んでいきたい。 ・ 重点努力目標達成に向け、生徒の意識付けをしっかりと行い、適切な評価を行い励ますことで、生徒に自己肯定感や愛校心を育てたい。 ・ 各種たよりやホームページ等によって、本校の教育活動に関わるタイムリーな情報を、保護者や地域に発信し、学校・地域・保護者が一体となって生徒を育てる学校づくりに取り組みたい。 ・ 学校運営全般について高い評価をいただいているが、PTAとの協力体制をさらに強化し、保護者の学校行事・教育活動への関心を高める努力をする必要がある。 ・ 保護者や地域の皆さんに対して、生徒の諸活動の成果をPRすることで、本校への理解を促すとともに、「出前授業」等で異校種の教育活動により一層貢献したい。
--	--